



2020年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年11月8日

上場会社名 株式会社 永谷園ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 2899 URL <http://www.nagatanien-hd.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 永谷 泰次郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営戦略本部経理財務部長 (氏名) 江口 輝 TEL 03-3432-2511
 四半期報告書提出予定日 2019年11月13日 配当支払開始予定日 2019年12月10日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	50,709	0.7	1,251	15.4	922	53.4	378	72.0
2019年3月期第2四半期	50,349	8.4	1,478	0.3	1,978	39.8	1,350	86.7

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 89百万円 (89.4%) 2019年3月期第2四半期 836百万円 (11.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	21.16	
2019年3月期第2四半期	75.15	

当社は、2018年10月1日を効力発生日として普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が実施されたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」を算定しております。なお、「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	85,891	32,590	36.7
2019年3月期	87,943	32,800	36.1

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 31,527百万円 2019年3月期 31,731百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		7.75		15.50	
2020年3月期		15.50			
2020年3月期(予想)				15.50	31.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、2018年10月1日を効力発生日として普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。2019年3月期の1株当たり期末配当金につきましては、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載し、年間配当金合計は「-」として記載しております。株式併合後の基準で換算した1株当たり年間配当額は、2019年3月期、2020年3月期いずれも31円となります。

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	109,000	4.1	3,900	65.5	3,700	49.9	2,100	98.5	117.46

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、(添付資料)10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(注)詳細は、(添付資料)10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期2Q	19,138,703 株	2019年3月期	19,138,703 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2020年3月期2Q	1,260,945 株	2019年3月期	1,250,854 株
------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期2Q	17,880,671 株	2019年3月期2Q	17,975,223 株
------------	--------------	------------	--------------

当社は、2018年10月1日を効力発生日として普通株式2株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が実施されたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策などを背景に企業収益や雇用環境に改善がみられ、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方で、米国の通商政策による貿易摩擦の深刻化への懸念や海外経済情勢の不確実性などにより、依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような経営環境の下、当社グループは、「企業戦略の充実」と「新価値提案力の更なるアップ」を経営課題として企業活動を行ってまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高50,709百万円（前年同期比0.7%増）となりました。利益面につきましては、原材料費及び物流費が高騰したことにより、営業利益1,251百万円（同15.4%減）、経常利益につきましては、為替差損を計上したことにより、922百万円（同53.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、378百万円（同72.0%減）となりました。

以下、セグメントの状況は次のとおりであります。

①国内食料品事業

永谷園においては、販売促進施策として、全商品を対象とした「お守り パンダリュック」プレゼントキャンペーンや、全国のおいしいものをお届けするギフトカタログを景品とした「食のおまつり」キャンペーンなどを実施いたしました。新商品では、魚介類の中でも人気の高い“えび”と“かに”の本格的な味わいを手軽に楽しめる「えびふりかにかにふり」を2019年8月に発売いたしました。また、幅広い世代から人気のテレビ番組「チョコちゃんに叱られる！」に登場するチョコちゃんをテーマとした「ふりかけ」、「カレー ポーク中辛」、「チャーはんの素」を2019年9月に発売し、ご好評をいただきました。

以上の施策を取り進めたものの、国内食料品事業の売上高は32,740百万円（前年同期比1.4%減）となりました。

②海外食料品事業

Chaucer Groupにおいては、既存取引先への売上拡大などに努めたことにより、米国市場を中心に企業向けフリーズドライフルーツ製品の売上が好調に推移いたしました。

以上の結果、海外食料品事業の売上高は12,129百万円（前年同期比7.3%増）となりました。

③中食その他事業

麦の穂グループにおいては、「ビアドパパ」にて、「わらびもちシュー（8月）」等の月替りの限定シュークリームを販売いたしました。また、期間限定商品として、まるで恐竜のたまごのようなハードな触感のシュー生地を楽しめる「恐竜のガリガリたまごシュー」を販売し、ご好評をいただきました。そのほかに、8月8日の“ビアドパパの日”にパイシューを特別価格100円で販売する年に一度のファン大感謝祭を開催いたしました。

以上の結果、中食その他事業の売上高は5,728百万円（前年同期比0.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より2,052百万円減少し、85,891百万円となりました。これは主に、機械装置及び運搬具並びにリース資産が増加したものの、受取手形及び売掛金並びにのれんが減少したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末より1,842百万円減少し、53,301百万円となりました。これは主に、短期借入金が増加したものの、長期借入金、支払手形及び買掛金が減少したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は主に、土地再評価差額金及び利益剰余金が増加したものの、その他有価証券評価差額金及び為替換算調整勘定が減少したことにより32,590百万円となりました。この結果、純資産から非支配株主持分を控除した自己資本は、前連結会計年度末より204百万円減少の31,527百万円となり、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ0.6ポイント上昇の36.7%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動による現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の増加額が、投資活動及び財務活動による資金の減少額を上回ったことにより、130百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末の資金残高は、7,834百万円となりました。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の増加額は3,397百万円(前第2四半期連結累計期間は975百万円の増加)となりました。これは主に、仕入債務の減少があったものの、売上債権の減少及び減価償却費の計上があったことによるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動による資金の減少額は2,188百万円(前第2四半期連結累計期間は1,150百万円の減少)となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出があったことによるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動による資金の減少額は1,018百万円(前第2四半期連結累計期間は708百万円の減少)となりました。これは主に、短期借入金による資金調達を行ったものの、長期借入金の返済による支出があったことによるものです。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想につきましては、2019年5月15日に発表した予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,711	7,854
受取手形及び売掛金	13,810	12,149
商品及び製品	6,549	6,340
仕掛品	1,307	1,466
原材料及び貯蔵品	5,388	4,735
その他	1,484	1,380
貸倒引当金	△54	△58
流動資産合計	36,197	33,867
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,339	18,742
減価償却累計額	△11,843	△12,031
建物及び構築物(純額)	6,496	6,711
機械装置及び運搬具	26,697	27,651
減価償却累計額	△17,825	△18,339
機械装置及び運搬具(純額)	8,872	9,311
土地	11,099	11,132
リース資産	1,914	2,252
減価償却累計額	△986	△1,104
リース資産(純額)	927	1,148
建設仮勘定	369	382
その他	2,473	2,551
減価償却累計額	△1,956	△1,998
その他(純額)	516	553
有形固定資産合計	28,282	29,240
無形固定資産		
のれん	12,681	12,019
その他	284	416
無形固定資産合計	12,965	12,436
投資その他の資産		
投資有価証券	7,540	7,147
その他	3,045	3,285
貸倒引当金	△87	△84
投資その他の資産合計	10,498	10,347
固定資産合計	51,746	52,024
資産合計	87,943	85,891

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,013	5,889
電子記録債務	2,839	2,811
短期借入金	7,458	8,385
未払法人税等	867	550
賞与引当金	625	637
その他	7,234	7,261
流動負債合計	26,038	25,536
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	15,340	13,909
役員退職慰労引当金	86	103
退職給付に係る負債	220	234
資産除去債務	246	262
その他	3,211	3,254
固定負債合計	29,104	27,765
負債合計	55,143	53,301
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,502	3,502
資本剰余金	6,197	6,197
利益剰余金	26,000	26,102
自己株式	△2,353	△2,375
株主資本合計	33,348	33,427
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,911	1,645
土地再評価差額金	△3,394	△3,154
為替換算調整勘定	△148	△394
退職給付に係る調整累計額	14	4
その他の包括利益累計額合計	△1,616	△1,899
非支配株主持分	1,068	1,062
純資産合計	32,800	32,590
負債純資産合計	87,943	85,891

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	50,349	50,709
売上原価	30,393	31,227
売上総利益	19,956	19,481
販売費及び一般管理費		
賞与引当金繰入額	327	283
退職給付費用	121	105
給料及び賞与	2,587	2,542
販売促進費	6,171	6,100
運賃及び荷造費	1,933	1,992
その他	7,337	7,204
販売費及び一般管理費合計	18,477	18,230
営業利益	1,478	1,251
営業外収益		
受取利息	9	7
受取配当金	69	107
為替差益	539	—
その他	69	98
営業外収益合計	687	212
営業外費用		
支払利息	114	128
持分法による投資損失	4	5
為替差損	—	344
その他	68	62
営業外費用合計	187	541
経常利益	1,978	922
特別利益		
固定資産売却益	268	—
補助金収入	18	—
特別利益合計	287	—
特別損失		
減損損失	14	13
災害による損失	9	—
会員権評価損	2	—
店舗閉鎖損失	9	2
特別損失合計	35	15
税金等調整前四半期純利益	2,230	907
法人税等	835	503
四半期純利益	1,395	403
非支配株主に帰属する四半期純利益	44	25
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,350	378

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,395	403
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	434	△265
土地再評価差額金	—	239
為替換算調整勘定	△983	△279
退職給付に係る調整額	△9	△10
持分法適用会社に対する持分相当額	—	1
その他の包括利益合計	△558	△314
四半期包括利益	836	89
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	814	95
非支配株主に係る四半期包括利益	22	△6

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,230	907
減価償却費	1,256	1,425
減損損失	14	13
のれん償却額	438	440
その他の償却額	21	29
貸倒引当金の増減額(△は減少)	9	2
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1	12
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	9	17
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△85	△4
受取利息及び受取配当金	△78	△114
支払利息	114	128
為替差損益(△は益)	△526	291
持分法による投資損益(△は益)	4	5
有形固定資産除売却損益(△は益)	△229	24
補助金収入	△18	—
その他の営業外損益(△は益)	0	5
売上債権の増減額(△は増加)	△761	1,588
たな卸資産の増減額(△は増加)	△871	581
仕入債務の増減額(△は減少)	44	△1,078
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△168	△237
未払消費税等の増減額(△は減少)	△112	86
その他の資産・負債の増減額	178	△314
小計	1,466	3,811
利息及び配当金の受取額	83	114
利息の支払額	△120	△138
法人税等の支払額	△555	△689
法人税等の還付額	101	298
営業活動によるキャッシュ・フロー	975	3,397

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△12	△12
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,692	△2,179
有形固定資産の売却による収入	448	10
投資有価証券の取得による支出	△11	△7
投資有価証券の売却による収入	5	4
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△23	—
差入保証金の差入による支出	△69	△26
差入保証金の回収による収入	36	23
補助金の受取額	80	—
その他	87	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,150	△2,188
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,394	949
長期借入れによる収入	—	52
長期借入金の返済による支出	△1,352	△1,488
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△173	△232
自己株式の純増減額(△は増加)	△298	△22
配当金の支払額	△278	△276
財務活動によるキャッシュ・フロー	△708	△1,018
現金及び現金同等物に係る換算差額	△42	△59
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△926	130
現金及び現金同等物の期首残高	8,473	7,703
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,547	7,834

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上しております。IFRS第16号の適用にあたっては、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(表示方法の変更)

前第2四半期連結累計期間において、「販売費及び一般管理費」、「営業外収益」及び「営業外費用」に計上しておりました不動産関連の収益及び費用を、前第3四半期連結累計期間より「売上高」及び「売上原価」に計上する方法に変更しております。

この変更は、従来付随事業として位置づけていた不動産事業について、前第3四半期連結会計期間において当社グループが保有する賃貸用不動産を一元管理、運営する部門を新設したことにより、グループの営業活動と密接に関係するようになってきたことから、連結営業損益をより適切に表示するために行ったものであります。

この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「売上高」が91百万円、「売上原価」が28百万円それぞれ増加し、「販売費及び一般管理費」、「営業外収益」の「不動産賃貸料」、「営業外費用」の「その他」に含めて表示しておりました「不動産賃貸費用」がそれぞれ減少しております。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内食料品 事業	海外食料品 事業	中食その他 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	33,218	11,300	5,738	50,257	91	50,349	—	50,349
セグメント間の内部 売上高又は振替高	25	3	13	42	53	95	△95	—
計	33,243	11,304	5,751	50,300	144	50,444	△95	50,349
セグメント利益又は セグメント損失(△)	2,274	△52	△72	2,149	101	2,251	△772	1,478

- (注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業であります。
- 2 セグメント利益又はセグメント損失の調整額△772百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△719百万円、セグメント間取引消去△53百万円が含まれております。全社費用は、主に持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。
- 3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	国内食料品 事業	海外食料品 事業	中食その他 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	32,740	12,129	5,728	50,598	110	50,709	—	50,709
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	4	6	14	42	57	△57	—
計	32,744	12,133	5,735	50,613	153	50,766	△57	50,709
セグメント利益	1,628	254	29	1,913	94	2,008	△756	1,251

- (注) 1 その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業であります。
- 2 セグメント利益の調整額△756百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△736百万円、セグメント間取引消去△20百万円が含まれております。全社費用は、主に持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

従来付随事業として位置づけていた不動産事業について、前第3四半期連結会計期間において当該事業を管理する部門を新設し「売上高」及び「売上原価」に計上する方法に変更したことに伴い、前第3四半期連結累計期間より当該事業を「その他」として報告セグメントに含まれない事業セグメントへ追加しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報についても、変更後の方法により作成しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。